



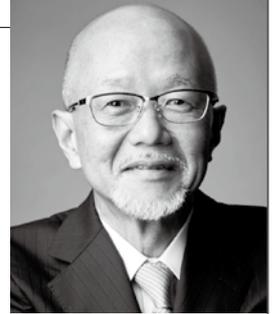
紹介者

山本 麻理

FRONTEO
取締役

鈴木 亨

日本能率協会コンサルティング
取締役社長



技術・商品開発の取り組みについて

日本能率協会コンサルティングには製造業で6年ほど仕事をした後、途中で入社した。入社して35年になる。主に製造業の研究開発部門のご支援をさせていただいた。1990年代から2000年代の初頭にかけてはアナログからデジタルに技術が変わる中で大変貴重な経験をさせてもらった。カメラ、複写機、交通インフラのデジタル化そしてデータセンター構築の支援など、非常に大きな技術革新の中でさまざまな商品開発の場に立ち会うことができた。また、2000年以降、日本の成長に陰りが見え始めたころ、技術を活用した新たな商品、事業の開発が求められるようになった。MOTという言葉が出て来たところである。欧米の背中を見て、いかに早く追随するかではなく、自ら新たなものを生み出す取り組みが多く企業の進展した。また、オープンイノベーションに対する取り組みも進んできた、当初は、自社だけでは解決できない課題に対して他社を巻き込んで解決するという、課題解決型のオープンイノベーションが主流であった。しかし、今求められているものは新たなニーズ、新たな価値を創出するための課題創出型のオープンイノベーションである。さらに最近ではACAT (Accelerator for Commercialization of Advanced Technology) という先進技術を活用して投資も含めて新たなものを生み出す技術商業化プログラムも展開されている。このように技術開発、商品開発の取り組みもさまざまな変化を遂げている。

さて、コロナ禍の中、多くの企業でWebを活用したリモートワークが展開されている。弊社のコンサルティングの60%余りがWeb対応になった。ただ、新たなものを生み出す議論の場はまだまだWebでは難しいようだ。多くのクライアントがリアルでかんかんがくがく侃々諤々の議論をする場や、ふとした出会いや会話ができる空間の必要性を訴えている。でも、もしかしたら2~3年後にはオープンな創造の場がWebを活用した形で実現できているかもしれない。今、できないことができるようになるのが、世の中の常である。新たなものを創出する技術開発・商品開発の新しい取り組みがこれから起こってくる。どんなものか？ 楽しみだ。

▶▶ 次回リレートーク

草野 隆史

ブレインパッド
取締役社長